

## 出版情報

書名・件名	厚生白書(昭和45年版)
編集者・監修者	厚生省
所在地	東京都千代田区霞ヶ関1-2-2
国名	日本
郵便番号	100-0013
電話番号等	03(3503)1711
発行日	昭和45年12月21日
I S B N	
価格	600円

## 昭和44年度厚生行政年次報告書の発表に際して

これは最近一年間の厚生行政の報告書であり、厚生行政の諸問題があるがままの姿で記述したものでありまして、勿論私どもの施政方針や政策を論じたものではありません。

しかし、この数年間、とくにこの一年の間においては、国民と政府とを含めて、社会福祉や社会保障、公害対策や生活環境に対する意識と考え方が大きな変りかたを示し、或いは急速に進展してきたと思います。それは、総理大臣が「人間性の尊重」という言葉や、「福祉なくして成長なし」といわれるようになってきたことから裏付けされます。勿論それは、最近におけるわが国経済の急速な成長と、それに伴うひづみや社会構造の変動とも密接な関連もありましょうが、より本質的には21世紀に近づく今日、われわれ人間そのものの本来の貴重な進歩から生れてくるものかとも考えています。

御承知のように、厚生行政の分野はまことに広く、「揺りかごから墓場まで」といわれていた社会福祉や社会保障の施策は、いまでは、揺りかご以前、胎児のうちから母子保健の課題があり、また、墓場のあとも遺族援護の行政があります。

食品や薬品の行政、健康保険制度の運営のほか、国立の病院、療養所の経営、自然公園や国民年金、厚生年金の制度をも所掌している厚生行政は、国民生活のほとんど全面に接触して、たとえていえば、病院、銀行、保育所つきの百貨店か名店街のような官庁ともいえそうです。

私はこの白書を通じて、国民の皆様はこの店内に入つていただき、隅々の売り場や各コーナーの状況をご理解いただき、苦情も承り、ご鞭撻もいただき、70年代の政治の主役となるべき厚生行政の将来の指針について御意見や御指導を賜われれば、望外の幸いと存ずるものであります。

昭和45年10月23日 内田 常雄 厚生大臣